「バス危機突破 総決起大会」の開催について

日本バス協会は、令和８年１１月１１日(水)午後、自由民主党本部８階ホールにおいて「バス危機突破 総決起大会」を開催しました。

当日は、全国からバス業界関係者約３００名が集結するとともに、バス議員連盟を中心に１０２名の自民党国会議員の先生方や、国土交通省幹部の皆様にもお越しいただきました。

バス事業は、深刻な運転士不足や燃料高に直面し、特に改善基準告示により休息時間が９時間になったことでさらなる危機的な状況にあることから、人材確保や路線の維持、自動運転など各種対策への支援を強く求めました。

清水会長は冒頭の挨拶で「バスは人手不足で危機にある。運転士がいなければ路線は成り立たない。国家としてこの危機突破をお願いしたい」とし、

【燃料高騰を抑制するための支援継続】
【国際観光旅客税を活用し、バスなど二次交通の支援強化】
【運転士不足対策の強化】
【自動運転バスの支援強化】
【EV バス支援と 5 年間減税実現】
【完全キャッシュレスバスの支援】
【運輸事業振興助成交付金の継続】
【外国人バス運転士の特定技能 2 号実現】の８項目を掲げ、ご出席の先生方へ支援を強く訴えました。



（清水会長ご挨拶）

続いて、自由民主党　高市早苗総裁からの「高市内閣は、経済の力で国民の暮らしを守り、全国どこでも安全に生活し働ける社会の実現を目指しています。その基盤となる地域公共交通を維持するため、「日本成長戦略」と「地域未来戦略」を両輪に、計画的な財政支出や自動運転の拡大などあらゆる政策を総動員し、関係者と連携して取り組みます。」との祝辞を読み上げ、次に、自由民主党バス議員連盟会長の逢沢一郎先生からは、「バス事業は国民の皆さんの日常の移動の自由を確保し、災害時にはなおさら必要不可欠となる最後の砦であります。そのバス業界がどれだけ危機的な状況に置かれているか、税制や予算を含めた様々な施策で危機を突破できるよう自民党としても前進していきます。そのためにも皆さま方のご支援を心からお願いします。」とのご挨拶をいただきました。



（逢沢会長ご挨拶）

御来賓の先生方からは、まず自由民主党・幹事長の鈴木俊一先生から「バス路線を含む地域交通は、日常生活に欠かせない重要な社会インフラであるが、業界を取り巻く燃料高騰、ドライバー不足、EVバスや自動運転への対応といった新たな課題が次々と生まれていることを認識しています。本日、８つの決議事項をいただくことになっております。いずれの事項も、大変厳しい経営環境の中で、地域のために懸命に経営に取り組み続けていただいているバス事業者の皆様の切実な声であると受け止めさせていただきます。ぜひ皆様方の声、これをしっかりと胸に刻みながらバス事業者の皆様が安心して事業に取り組むことができる環境を整えてまいりたいと思っております。」とのご挨拶をいただきました。次に、自由民主党総務会長の梶山弘志先生から、「バス交通は国民生活に欠かせないものであり、直近では熊本地震や千葉の豪雨をはじめ災害時や緊急時には協力いただいています。燃料高騰、運転手不足、EVバスや自動運転といった新たな技術への投資が必要です。バス業界の経営環境は大変厳しいものかと思いますが、これ以上交通空白を作らず、地域の足を守るために皆さんとともに予算や税制に向けて取り組んでまいります。」とのご挨拶をいただきました。



（鈴木幹事長ご挨拶）



（梶山総務会長ご挨拶）

最後に、国土交通大臣政務官の草間剛先生から、「バスは平時のみならず災害等の非常時においても重要な役割を果たしていただいております。しかし、バス業界は運転士不足や燃料価格の高騰など非常に厳しい経営環境に置かれており、運転士不足による路線バスの減便・廃止や観光需要に対する供給不足が全国各地で顕在化していると認識しております。特に運転手不足は重要な課題のひとつであり、国土交通省としては運賃改定手続きの迅速化、事業者の皆様による賃上げの促進といった対策の後押しをしておりますが、バスの維持に必要な予算の確保に取り組んでまいります。」とのご挨拶をいただきました。



（草間国土交通大臣政務官ご挨拶）



（清水会長によるガンバローコール）

続いて、出席された国会議員の先生方お一人お一人から力強い応援のお言葉をいただき、要望事項 8 項目の大会決議が自由民主党バス議員連盟事務局長武井駿輔先生から提案され、満場一致で採択されました。

最後に清水会長の発声によるガンバローコールで総決起大会を終了しました。